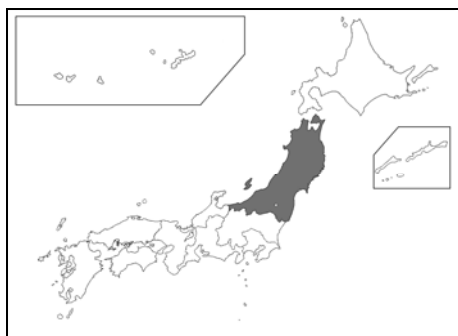


(2) 東 北



東北地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

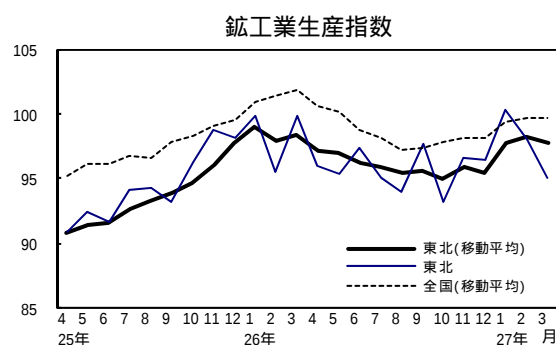
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 2 月)	今回 (平成 27 年 5 月)	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	↑

1 . 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は、持ち直しの動きがみられる。

1 ～ 3 月期には、電子部品・デバイスは、コネクタ及びシリコンウエハがスマートフォン向けの生産が好調だった影響などから増加した。はん用・生産用・業務用機械は、超硬工具がスマートフォン向け及び半導体製造装置向けの生産が好調だった影響などから増加した。食料品・たばこは、配合飼料が設備トラブルの影響などから減少した。情報通信機械は、産業用テレビ装置が増加した。輸送機械は、乗用車が国内向けの生産が好調だった影響などから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

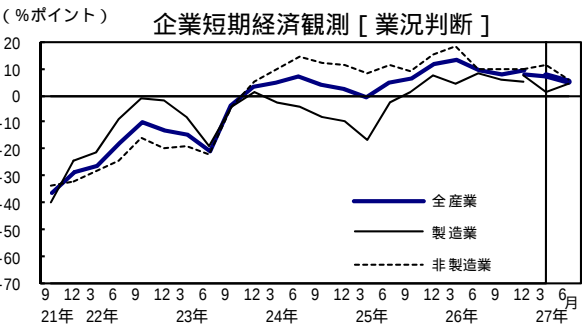
	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
電子部品・デバイス	16.9	0.2	5.7	9.4	▲5.6	▲3.3
はん用・生産用・業務用機械	14.7	3.6	2.2	2.9	▲7.0	8.2
食料品・たばこ	10.6	▲5.3	▲6.1	▲0.5	▲5.3	1.5
情報通信機械	9.2	0.1	7.7	▲7.2	3.1	▲9.1
輸送機械	8.3	▲0.6	7.2	10.9	▲4.6	▲1.5
鉱工業	100.0	▲0.1	2.4	4.0	▲2.4	▲3.0

(備考) 1 . 22 年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2 . 全国及び東北の太線は後方 3 か月移動平均。

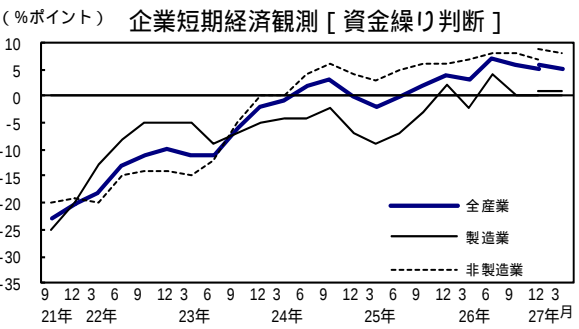
(備考) 1 . 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。
2 . 1 ～ 3 月期、3 月は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は、「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

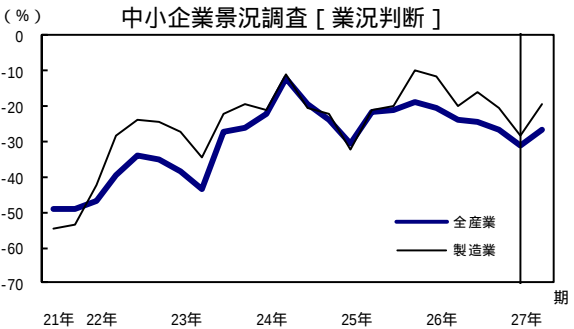
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」 - 「悪い」回答者数構成比。27年6月は予測。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」 - 「苦しい」回答者数構成比。
21年12月及び26年12月は新・旧基準を併記。

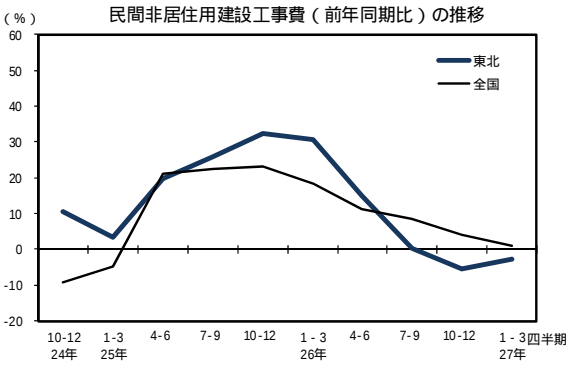


(備考)「好転」 - 「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (4 月) [企業動向関連 (現状)]

「前年の消費税増税後の反動減の影響もあり、今月は好調な出荷となっている。また、今年は花見や歓送迎会が積極的に開催されており、飲食店向けの出荷好調の要因となっている (その他非製造業 [飲料品卸売業])」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は、減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (3 月調査)]

(前年度比、 %)

	26年度実績見込み	27年度計画
全産業	10.8 (5.0)	▲14.2
製造業	28.0 (1.2)	▲17.0
非製造業	▲4.1 (9.9)	▲11.1

(備考) () は前回 (12 月) 調査比修正率。

2. 需要の動向

- (1) 個人消費は、持ち直しの動きが続いているものの、このところ足踏みがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

1月は前月比2.0%減、2月は同1.5%増、3月は同0.9%増となった。

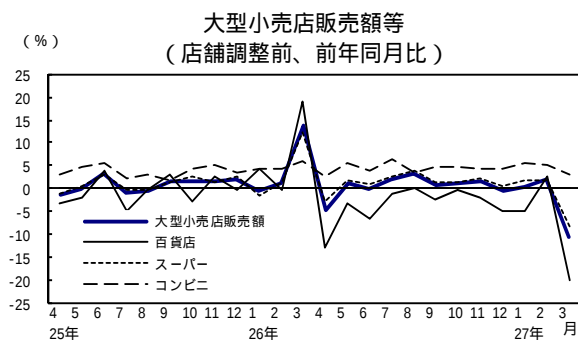
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、主力の衣料品は、冬物衣料がふるわず前年を下回った。身の回り品は、海外ブランド品やハンドバッグなどがふるわず前年を下回った。飲食料品は、野菜などがふるわず前年を下回った。2月は、主力の衣料品は、前年の大雪による影響の反動に加え、気温が高めだったことから、春物衣料が好調で前年を上回った。身の回り品は、海外ブランド品などがふるわず前年を下回った。飲食料品は、バレンタインデーや物産展などが好調で前年を上回った。3月は、駆け込み需要の反動減により各商品ともに前年を大きく下回った。スーパーは、飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品が前年を下回った。

景気ウォッチャー調査（4月）[家計動向関連（現状）]

東北地域の家計動向関連DIは、51.6となり前月より2.5ポイント上昇した。

「前年が消費税増税の反動で落ち込んだ分、今月は当然前年を上回る数字となっている。しかし、それとは別に客には購買意欲があり、特に新しい商品、春のシーズンアイテムや衣料品、物産展などに対しては関心度も非常に高い（百貨店）」など、「やや良くなっている」とする回答が増加した。

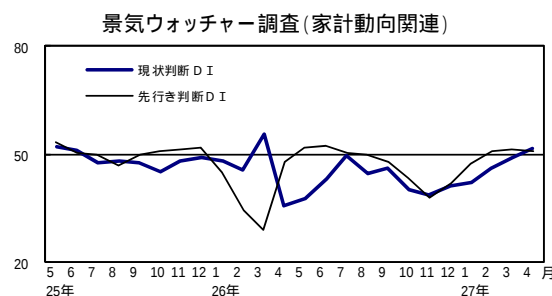
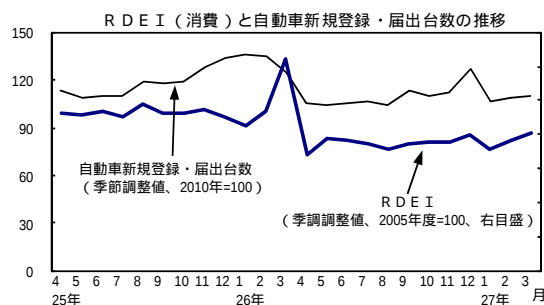


	27年1-3月	27年1月	2月	3月
RDEI（消費*1）	▲0.1	▲2.0	1.5	0.9
大型小売店(*2)	▲3.3	0.4	2.0	▲10.6
百貨店(*2)	▲9.2	▲4.9	2.7	▲20.0
スーパー(*2)	▲1.9	1.7	1.8	▲8.1
コンビニ(*2)	4.6	5.4	5.3	3.2
乗用車(*3)	▲16.4	▲22.0	▲19.5	▲11.2
(季節調整値)(*3)	▲6.6	▲15.9	1.3	1.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



- (2) 住宅建設は、大幅に減少している。

持家、貸家が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

- (3) 公共投資は、26年度累計でみると前年度とほぼ同水準となっている。

